

小嶋稔先生を送る

杉浦直治（地球物理学教室）

早いものでまだお若いと思っていた小嶋先生を定年で東京大学からお送りする時期となってしまいました。先生は海洋底岩石の磁氣的性質、アルゴン-アルゴン法による年代測定に基づいた海洋底拡大の歴史、希ガスの同位体比に基づいた地球大気の起源など、地球科学の様々な分野において活躍されてきました。私が先生と共に地球物理学教室に在籍したのは院生時代の5年間と最近の4年間ほどですが、先生の研究への情熱は現在でも20年前と変わらず、毎日早朝から（おそらく地球物理学科では一番早く登校するのだと思いますが）実験に取りくんでおられます。最近ダイヤモンドが地球の昔しのマントルの情報を良く保持していることを使って、地球のマントルの進化に関して次々と論文を発表されています。第一線で活躍されている先生が定年で退官されるのはたいへん残念なことです。

先生の生活は、北米へ若くして留学された影響とありますが、アメリカナイズされていて、夕方は早目に仕事を終えてコンサートに行ったり、家庭サービスをしたりで、学生の目にも恰好良く見えたものでした。現在でも雑用に追われて夜おそくならないと帰れない自分と比べると、規則正しく、余裕のある生活をされている先生はとてもうらやましいのです。

学問を離れても、すべての行動に合理性を重んじる先生ですが、そんな先生の趣味に将棋があります。昼休みに時々対局するのですが、こと将棋となると、王より飛車を大事にする傾向があって、万事に合理的な先生の非常に人間的な側面を見る思いがしました。

先生は時々他人の不興を買うことを承知の上であえて辛口の批判をしたりするので、時として人

に誤解をされたりすることもある様ですが、学問を發展させようという先生の信念と情熱は、日本の地球科学関連の学会の發展に大きく貢献してきました。

研究成果は一流の雑誌に投稿しなければいけないというのが先生が院生に対していつも言われる言葉でした。院生に対する指導はむしろ放任主義のようでしたが、先生が良い論文を一流の雑誌に発表するというので、学生に研究の手本を示してきた様に思われます。

退官後は大阪大学に移られて、地球科学の研究を続けられるとのこと。先生の長年の研究と教育に対する御尽力に感謝致しますとともに、今後の一層の御活躍を期待しています。